

厚生労働行政推進調査事業費補助金  
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)

分担研究報告書

若年者を対象とした効果的な薬物乱用予防に係る広報戦略の策定に関する研究

研究分担者：河井孝仁  
(東海大学文化社会学部広報メディア学科)

## 研究要旨

行政機関が効果的な薬物乱用の予防啓発活動を企画・実施するために、地域の多様な団体及び市民と連携しつつ、どのように広義のメディアを活用することが望ましいかについて分析する。

今年度においては、Webアンケート及びフォーカスグループインタビューを行い、大麻乱用への許容度の違いによる、メディア利用状況や身近な人々からの影響度の相違などを明らかにすることで、行政の相談機関の意義や対応方法について検討した。

さらに、従来の「ダメ、ゼッタイ」キャンペーン等を中心とする大麻乱用防止広報についての課題を確認することをめざした。

### A. 研究目的

本分担研究では、大麻に関する科学的知見や、特徴的な取り組みを行っている国・地域における規制・実態・広報手法などの継続的な情報収集に基づき、行政機関が地域の多様な団体及び市民と連携しつつ、若年者に向けた効果的な薬物乱用の予防啓発活動を企画・実施するために、広義のメディアをどのように活用することが望ましいかについて分析することを目的とする。さらに、当該分析に基づき、行政機関等が利用しやすいガイドブックの作成を目指すものとする。

分析のためのフレームワークとして、AIDA・AIDMA・AISAS・SIPSなどの消費者行動変容に係る記述モデルを戦略モデル化した「メディア活用戦略モデル」を用いる。

今年度は、メディア活用戦略モデルによる行動変容の内容として、大麻乱用への許容度の高い層である強い不安を持つ若年者が、地域の支援力を発見し、活用するための課題発見と適切な行動促進の明確化を目的とした。

### B. 研究方法

1. 国内における大麻乱用に係る若年者支援についてのヒアリング

国内のヒアリングについては、2022年9月に札幌市の精神保健福祉士のN氏へのヒアリングを行うとともに、札幌市若者支援総合センターを訪問した。

2023年2月には沖縄県豊見城市で薬物乱用を含む非行少年の立ち直り支援を行っている特定非営利活動法人あきづ理事長への聞き取りを行った。

2. 国外における大麻乱用に係る若年者支援についてのヒアリング

国外では、2023年1月に台湾・台北市で薬物乱用を含む問題行動を起こした若者の立ち直りを支援する財団法人利伯他茲教育基金會の副理事長2名にヒアリングを行った。

3. 若年者の不安と相談意欲に係るアンケート

2023年3月に、株式会社マクロミルに委託し、全国の20歳～29歳、412人を対象にWebアンケートを行った。

### C. 研究結果・考察

1. 国内における大麻乱用に係る若年者支援についてのヒアリング

沖縄県豊見城市のNP0あきづ代表の金城氏からのヒアリングでは下記のような知見を得られた。

不安を抱えたり、迷ったりしている若年者の「居場所」づくりにとどめるのではなく、「活躍できる場所」づくりが求められる。そうした「活躍できる場所」が実際には既に存在することも多く、その場合には「場所づくり」というより、若年者が「活躍できる場所」を発見できるように支援する広報が求められる。

その際、一般論としての「活躍できる場所」の発見支援ではなく、個々の若年者の志向や資源、力に応じた相応しい「活躍できる場所」の発見が支援されなければならない。ここではセグメントの発想が必要になる。

「活躍できる場所」発見支援については、多様な「活躍できる場所」についての知見を持ち、ネット

ワークを持っているセカンダリなゲートキーパーに出会うための広報が求められると考える。この際、セカンダリなゲートキーパーは審判者、指導者ではなく、伴走者、共に悩む存在であることが必要になるだろう。

ここで、「セカンダリな」と述べたのは、不安を抱える若年者自身の「活躍できる場所」発見意欲が希薄な場合は、ファーストゲートキーパーとしての友人や家族が、セカンダリゲートキーパーを認知し、関心を持ち、探索し、着地点で信頼し、共感し、そのうえで本人を促す行動促進を可能とする広報戦略が求められるとの発想に基づく。

このことは、札幌市で薬物乱用者の支援にあっていた精神保健福祉士からのヒアリングによって得られた、若年者支援を実現できるように「地域をトレーニングする」という発想の有効性にもつながると考える。

## 2. 国外における大麻乱用に係る若年者支援についてのヒアリング

台湾・台北市の財団法人利伯他茲教育基金會の副執行長である張氏及び陳氏へのヒアリングからは下記の知見を得た。

大麻乱用防止に係る施策の対象者を「乱用者」や「乱用へのハードルが低い者」という断片として捉えるのではなく、①家庭環境を中心に課題を抱えている、②友人へのSOSが適切に受信されない、③不安解消や友人関係により大麻・薬物乱用に陥る、④乱用により、一時的な昂奮と満足と不安と将来的な損失を増加させていく。⑤摘発等により乱用から離れる、⑦離脱のために身体的・精神的に苦しむ、⑧新しい生活や暮らしを得て困難を乗り越えつつ立ち直ろうとする、という一連の「物語を生きるもの」として把握することが重要になる。

この把握により、コンタクトポイント、各時点で訴求できるコンテンツを明らかにできるに止まらず、ストーリーを的確に伝えること、見える化することで、新たな若年者による大麻・麻薬乱用の防止を可能としつつ、乱用経験者の立ち直りを支援する広報が可能となる。

実際に、財団法人利伯他茲教育基金會事務所周辺には、乱用経験者が立ち直ろうと仕事に就いているレストラン、カフェ、弁当屋などが軒を連ねる一画もあり、地域の人たちも屈託なく利用している姿が印象的である。

## 3. 若年者の不安と相談意欲に係るアンケート

当該アンケート結果の知見は以下の通りである。

Q1 あなたは強い不安を抱えたときに、相談できる人はいますか。

(表1)

|        | 人数  | %    |
|--------|-----|------|
| 複数いる   | 218 | 52.9 |
| 1人ならいる | 94  | 22.8 |
| いない    | 100 | 24.3 |

Q2 あなたは強い不安を抱えたときに、相談できる専門的な場所を探しますか。

(表2)

|             | 人数  | %    |
|-------------|-----|------|
| 専門的な場所を探す   | 86  | 20.9 |
| 専門的な場所を探さない | 326 | 79.1 |

Q3 あなたは「不安について相談を受ける専門的な場所は信頼できる」と思いますか。

(表3)

|                     | 人数  | %    |
|---------------------|-----|------|
| ほとんどの場所は信頼できる       | 33  | 8.0  |
| 信頼できる場所も信頼できない場所もある | 196 | 47.6 |
| ほとんどの場所は信頼できない      | 73  | 17.7 |
| わからない               | 110 | 26.7 |

Q4 あなたは「不安について相談を受ける専門的な場所が、信頼できる場所か、信頼できない場所か」見極められると思いますか。

(表4)

|              | 人数  | %    |
|--------------|-----|------|
| 見極められると思う    | 130 | 31.6 |
| 見極められるとは思わない | 282 | 68.4 |

Q5 不安について相談を受ける専門的な場所は、あなたが相談した場合、あなたに共感を持って接してくれると思いますか。

(表5)

|                                      | 人数  | %    |
|--------------------------------------|-----|------|
| ほとんどの場所は共感を持って接してくれると思う              | 78  | 18.9 |
| 共感を持って接してくれる場所も共感を持って接してくれない場所もあると思う | 179 | 43.4 |
| ほとんどの場所は共感を持って接してくれないと思う             | 42  | 10.2 |
| わからない                                | 113 | 27.4 |

このアンケート結果からは、不安があっても専門的な機関への利用意欲は低く、その理由として、専門的な機関の意義を十分に把握できていないことが

推察できる。

この点に注目すれば、大麻乱用への許容度が高い若年者を地域の支援力の一つである専門的な機関についての情報を十分に提起することの有効性が指摘できる。

#### E. 参考文献

内田美宇「現代社会における薬物乱用とその対策について」(2015)

[http://www.shigakukan.ac.jp/information/upload/report2015\\_04.pdf](http://www.shigakukan.ac.jp/information/upload/report2015_04.pdf)

河井孝仁『新・シティプロモーションでまちを変える』彩流社(2022)

河井孝仁『市民は行政と協働を創れるか』彩流社(2022)

北 浩樹, 伊藤 千裕, 木内 喜孝「大学と学生の大麻情勢—大麻リスクとその対策—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第6巻, p193-204 (2020)

警察庁違法大麻撲滅キャンペーン「I'm CLEAN—なくす やめる とおどける—」

[https://www.npa.go.jp/bureau/sosikihanzai/yakubutujuuki/illegal\\_cannabis/](https://www.npa.go.jp/bureau/sosikihanzai/yakubutujuuki/illegal_cannabis/)

村上勲, 齋藤百枝美, 渡辺茂和, 土屋雅勇「薬物乱用防止に関する薬学部1年生の意識変化」『薬学教育』第2巻 (2018)

薬物乱用者の手記\_神奈川県 (厚生労働省から)

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/n3x/yakumu/yakutai/cnt/note.html>

薬物乱用防止のための基礎知識\_麻薬・覚せい剤乱用防止センター

<http://www.dapc.or.jp/kiso/index.html>

#### G. 研究発表

「若年者への大麻乱用防止広報の重点」河井孝仁 (第9回公共コミュニケーション学会事例交流・研究発表大会) 2023年2月26日

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし